

水戸線ワンマン化 見直しについて



林 悦子議員

問

本年三月から、水戸線が全車両ワンマン化され、ダイヤの遅れ、安全運行車内マナーの悪化などが懸念されている。

答

市長公室長 JR水戸支社によると、3月4月で40件余の苦情が寄せられています。その8割が朝の時間帯の列車の遅れについてで、宇都宮線・両毛線・バスへの乗り継ぎへの不満です。停車時間が長くなったためですが、遅れは減ってきているそうです。

また安全対策として、運転席に、乗降確認で

問

きるモニターカメラを設置しているそうです。沿線市が独自に取り組んでいることは何か。

答

市長公室長 笠間市では、無人の稲田駅、福原駅、六戸駅に臨時職員を配置し、毎日朝7時から15時半頃まで、対応しております。当市も、岩瀬駅での対応を検討してまいります。

問

一、二車両でのワンマン運行は他所でもあるが、すべて運転手一人に任せるのは、これが限界ではないか。会社の効率化はわかるが、五車両ワンマン化では、安全性の代償が大き過ぎる。民営化したとはいえ、JRの交通網は国民の資産であり、公共交通

としての使命はある。JR東日本本社に、直接、要望活動を行なうてはどうか。

答

市長 ワンマン化後の現状を十分把握した上で、同様の課題を抱える関係市とともに、JR東日本本社への直接要望を行なうてまいります。

ヤマザクラ
山桜・ハチミツ
プロジェクト



問

「山桜55万本」が桜川市のまちおこしの柱だが、当市に生息する日本ミツバチとのコラボで、夢のある、更なる町おこしができるのではないかと

答

総合戦略部長 山桜のハチミツは希少価値が高いが、課題も多い。近隣や関係機関からの情報収集、市民の勉強会を行なうていきたいと考えます。

令和3年8月